# ヨット教範

日本ヨット倶樂部

昭和七年

# 日本ヨット倶樂部ヨット教範

## 第一　總　則

Sailing Committee

1— 本教範は日本**ヨット**倶樂部帆走委員會の制定する所であつて之が改廢變更も同様である

2— 本教範は日本**ヨット**倶樂部所屬の一般船艇の扱ひ方、術語、其他帆走要領を定めたものである。

3— 帆走は統制的な、又、合目的な美の合一体であるから、倶樂部員のみならず、客員も、本教範に示す所を守つて貰ひたい。

4— **スポーツ**は强制でなく、創意に發する。故に罰則のない規範こそ、眞の**ヤツツメン**の準繩である。

## 第二　配　艇

5— 帆走委員長又は其代理者は**クルー**を召集して當日の大体の指示事項を傳へ、併而**クルー**の配艇を決定する。

6— 倶樂部團体行動に參加し得ざる**クルー**は帆走委員長に承認を得ねばならぬ。

7— 原則として各艇の**クルー**は該年度委員會の發表せる基本配艇表に依る。客員の配艇は帆走委員長又は其代理者之を決定する。

8— 帆走委員會**ヨット**講習會を開かんとする時は靜波號を使用し、參加者多數なる時、晴嵐型全部を用ふ

講習會の指導者は帆走委員、若しくば委員會が任命したもの之に當る。

9— 倶樂部の艇を他に貸與する權限は委員會の外いづれの者も之を有せない。委員會は貸與證を發行して、其の適法なるや否やの證明とする。

## 第三　用語群

10— 艇の部分名稱　附錄第一圖

11— 帆の部分名稱　仝　第二圖

12— 索の名稱　仝　第三圖

13— 帆走用語　仝　第四圖

## 第四　出艇

14— **クルー**は艇長を互選し、艇長は他の**クルー**の**シート**を決定する。

15— **クルー**は艇長の指示に從ひ、各分掌の船具、帆索を點檢し、積載用品の積込をなす。

16— 出艇用意、出艇、の號令を下し、進水せしめ、一番手は艇を繫船**ブイ**に達着せしむ。

17— 出艇後、艇庫の整理は二番手、又は艇長之を擔任す。

## 第五　艤　　装

18—　協力して帆檣を整備し、靜索、動索は分掌による。

(註)波高き時は帆檣を倒さない樣充分注意せよ。

19—　帆は正しく、平坦なる一面をなす樣、注意して展帆せよ。

(1)　主帆張揚索(メーンハリアーズ)を**ガフ**に結ぶ

(2)　主帆索(メーンシート)を**ホース**の滑車にとる

(3)　主帆展帆す

(4)　動索を整理す。特に、正しく輪狀にして他物が近くにあつては早急の時に邪魔になるから注意のこと

20—　器物は常に一定の場所に置くこと、即ち

(1)　**クルー**所持品、**シート**の下に

(2)　豫備索、**スワーツ**の上に

(3)　**ジャツケ・ナイフ**は**クルー**の胸間に

(4)　燈火器、錨、旗、鎖は**カツスル**に

(5)　竿、**ポール**、は甲板水路部(ウオーダーウエー)に固縛す。

21—　物の整理、置場所の一定、等は早急なる必要に應ぜんが爲の戰鬪準備であるから此目的を忘れては意義がない。　故に

(1)　脚場(ルーム)は廣く

(2)　立たずに手がとゞく様に

(3)　一動作で用が達せられる様に

例へば、ひさ引きで竿がはずれる様に縛して置く如きこれである。

**シート、ハリアーズ**其他の止め方も同様である。

22—　旗類は左の要領で掲揚する。

(1)　**ペナント**は**ピーク**に

(2)　個人旗は**リーチ**に

(3)　絞帆、碇泊中は**ペナント**(上)個人旗(當日の艇長旗)(下)の順に主帆揚索で掲揚のとこ

## 第六　發　艇

23—　發艇前に、艇内の整頓完了を期すこと。

24—　發艇用意、で**クルー**は定位置につく。

25—　發艇、　の號令で一番手は上手舷**コーター**から繫留索、**ブイ**を放せ。

26—　發艇**コース**は安全なる**コース**を選び、發艇完了後、所期の**コース**を設定せよ。

27—　追手走で發艇する時は前帆のみにて發艇するも一法である。主帆のみにてもよい。

28—　前帆は發艇後、展帆するも、繫留中にするも隨意とする。

(1)　**タツク**を**トラベラー**に結び

(2)　**ヘツド**に前帆揚索を結ぶ

(3) **トラベラー**の引手(アウトホール)を引き**タツクをバウ・スプリツト**の尖端へ送り出し

(4) **シート**をゆるい目にくゝり置き

(5) 揚索を引締め**タツクル**する

(6) 動索を輪狀にして整理する

## 第七　詰開(つめひら)き帆走　closehauled

29-- 風位と**キール**線とのなす角度の中間に**ブーム**を持つてくる位がよい。夜の帆走では頰(ほゝ)で風位及强弱を感知するがよい。風上へ向ひすぎるよりも、やゝ下手(シタテ)に落した方が艇足も付き、舵もよく效(き)き、常に全帆走狀態にあるから、風壓(ふうあつ)も緩和出來る。風は、止つている艇に一番ひどく壓力を加へるからである。艇足がなければ舵は効かないからである。

30— 艇長は上手(うはて)水面の狀況に、一番手は下手(しもて)水面の狀況に注意して、突風 大波、他船、浮物を監視す。

31— 一番手は前帆の飄動(ラフイング)に注意して、前帆**シート**を活用せよ。**シート**は直線をなすよりも、**カーブ**狀を可とする。舳の横壓は之を出來る丈避けよ。

32— 風は同じ調子に吹くものでない。持續時間を豫斷して、風力のある水面へ艇を向けること及び風向一變するも、今迄の苦心した詰開き帆走を相殺して、無駄をなさゞる注意を要す。但し**ヤツツメン**は神さんでないことも知らねばならぬ。

33— 山峽、地物、山、で風向、强弱の變化することを注意せよ。

## 第八　縮　帆

34— 風强く木の技のゆれる程度の日は第一又は第二縮帆を發艇前にすること。

移動(ムービング)**バラスト**(**クルー**)小數の時も同樣である

35— 帆走中、風强くなりたる時は先づ前帆卸ろせの號令で前帆を絞帆する。

(1) 揚索の**タツクル**をはずして帆をたぐり込む

(2) **トラベラー**の**アウト・ホール**を放出して**タツク**を引込む

36— 主帆縮帆は絞帆して後やつてもよいし、**ガフ**が**マスト**と竝行して下りてくる工夫のしてある時は躑躅(ちちゆう)してやつてもよい。

(1) **タツク**と**クリユー**を**ブーム**の最尖端に**ペダント**でくゝる

(2) **リーフ・ポイント**で**フット**をくゝる

(3) **シート**は**ブーム**が左右に振らつかない様締込む必要がある

## 第九　伸　帆

37— 縮帆の反對をやればよい、即ち

(1) **リーフ・ポイント**を解く

(2) **ペダント**を解く

(3) 揚索を處理する

38— 帆が袋狀になつて下手(したて)水面につからない様に注意を要する。踟躕を必要とするのである。

## 第十　上手廻し　aboutship

39— 上手廻し用意、の豫令で、やゝ艇首を起(オコ)して前帆索を緩めると、同時に主帆索を締め、舵柄を**キール**線迄徐々に持ち來り、後半分は急舵して、二段活用の**リズミカル**な轉舵回頭をやる。即ち艇の運動量を活かして、風上へ逆走の一助たらしめよ。

40— 回頭(かい)意の如くならざる時は前帆風上の號令で上手へ裏帆を用ひ突き出す。

41— **クール**は回頭(かい)に適應して、上手へ、かゞんで移動する。

42— 回頭に失敗した時は、早く舊に復して、艇

足をつけ再度、やる。無理をせなくとも出來る仕事である。

## 第十一　下手廻し（したて）　Wearing

43— 主帆索を緩め轉舵して（徐々に）**コータリー**又は**ビホア・ザ・ウインド**の帆走型をとり艇速をつけて轉舵と同時に主帆索を急に緩め、**ジヤイビング**（裏帆）による反動衝撃を拔くこと。

44— 前帆索は緩めたまゝにして、艇が裏帆の瞬間**ラフ・アツプ**するのを妨げない樣にせよ。裏帆の反動拔きには有効であるから。

45— 追手又は順走型をとるから上手廻しよりも運動水面は多くいる。故に他物、他船に注意せよ。安全に完了することが第一着眼点で、所要**コース**は其後、設定すべきである。

## 第十二　正横走　abeam

46— 風位と**キール**線のなす角度が一R（アール）であるから、常に、風波を眞横に受け、危險度は他の帆走よりも大である。波が艇の下を潛る時は、傾斜度を越へないとも限らない。下手舵の傾向のある艇では一層危險である。

47— 主帆索、前帆索、舵は常に備へ、**クルー**の五官は鋭角でなければ、**ラン・オフ**するか**ラフ・アツプ**するか、即ち準横走の何れの谷へ下りるか

判斷を誤る。

## 第十三　準横走　Off the wind

48—　正横走の前、後各約½Rの間を準横走と云ふこの帆走型は樂である。と云ふのは前半½の時は突風が來たら、やゝ開(ひ)けばよい。又後半½であれば艇足があるから風壓は餘り堪(こた)へないからである。

49—　此帆走は艇が開く傾向がある。又**コース**の逸脱の傾向があるから舵手は目標を定めて微妙な感覺を働らかす必要がある。
これ等の修正に舵を以てするか帆索の加減を以てするかは**クルー**の**ヤツツマンシツプ**が答へて呉れる。

50—　この帆走型は研究を切望する。それは詰(つめ)開きとか、追手とか、正横走とか云ふ單一走をこの準横走を複合することによつて代行し單一、極端の持つ短所を避け得られるからである。

## 第十四　**コータリー**　quartery

51—　正横走後半½Rと**デツド**との間の帆走型を指すのであつて、**ヨツト**の**リツギン**から見て、一番能率がよい安全な帆走型だと云ひ得る。
主帆索が放出せられているから**ラフ・アツプ**をして風を抜けば索を締めねばならぬ。

詰開きの**ラフ・アップ**よりも艇足維持は樂である。

風波も**コーター**で受けられるから浸水の惧れも少ない。

## 第十五　追手帆 running dead

52— 一番樂な様に見えて一番面倒である。氣を緩めるから一層誤ち易い。船尾から波が追ひかけてくるので逸脱の惧れがあり、從つて裏帆(ジヤイビング)の危險がある。

53— 帆索を放出していれば裏帆の危險は少ない様だが、艇足があるから知らぬ間に逸脱する。從つて放出が大であれば裏帆の衝撃も大で、放出が小であれば裏帆は起り易いが結果は前者に比して小である。

54— 風强き時は縮帆して追手で走つても艇足は充分得られるから追手走の短所をこれで補ふのも一方法である。

## 第十六　踟　躕 in stays

55— 團体航走、縮帆、伸帆等に際し、一定点に停止する必要がある、一番手は前帆を表裏に用ひ舵手は主帆を表裏に用ひ艇首を常に正頭風に維持する。多少とも艇足を維持して極端なる詰め開きをやるのが適當である。

艇が停止すれば、次に後退し始め、舵の效果は前進の時とは全く反對であるから注意を要する**ヒービング・ツー**なる一方法によることもよいこれは前帆の上手索を締めて、主帆は極端なる詰め開きで、ほとんど判らない程の艇足を維持して、逆走型を續けるのである。

## 第十七　達　着

56— 達着は常に風下よりすること。

57— 達着点に到着したる瞬間艇速零となる様**ラフ・アップ**して、餘勢が正さに達着点迄、艇を運び、しかも運び終りたる瞬間、停止すべき距離判斷を正確になすを必要とする。

58— **キレイ**にやることを念とし、一度に成功するを願ふな。

59— 一番手は達着前、すでに、前帆を絞帆格納し右舷**シユラウズ**の位置にて**ブイ**を摑むか、棧橋を捉ふ。繫索の用意を忘れない様に。

## 第十八　**ヨツト・キヤンプ**（仮泊）

60— 仮泊所へは、日沒迄に、成可く早く到達せよ豫定地に急ぐよりも適當なる近くの港を選ぶを可とす。港は袋狀の所を最良とす。風光、食糧の利点よりも安眠の出來る良港に過ぐる所はない

61— 艇の前後に繫留索を用ひ、水深を測り置く

こと。

62— 帆具、船具、所持品を各自の分掌に從ひ整理して燈火器、**マツチ**、懐中電燈、蚊取線香の所在を明らかにし、碇泊燈を**フオアー・ステイ**に掲ぐ。

63— 食事は茶を一番に沸かし、簡單なる献立を良とする。

64— **テント(オーニング)**は**ブーム**の上に覆ひ、**ブーム**は二脚台に固縛する。

65— 遠航に際しては、各自、仕事多きを以て、日頃の**ヤツツマンシツプ**を展開して、よく協力、朗らかなる氣分を醸成するに努めよ。

66— 二艇以上の團体航行には**フラツグ・シツプ**を互選決定する。他艇は旗艇の行動に倣ひ團体心意を重んずること。

67— 遠航途上出來得る限り倶樂部事務所大津百七十番へ電話にて狀況を通報すること。

## 第十九　帆走適語

68— 熟慮

69— 果斷

70— 艇速を常に保て

71— 地物、他船の風下に近寄るな

72— 他船**コース**を無理をして横切るな

73— 艇内で立つな

74— 漕艇と帆走とを同時に意圖するな。

75— 清潔にせよ。

76— **シート**を固縛するな。

77— 揚索は美しく輪にせよ、走り口を上にして、

78— 上手岸を航行せよ。

79— 帆檣にのぼる勿れ。

80— 乘艇に際しては体重を眞上からかけよ。

81— 乘降艇の時、跳んだり、蹴つたり、してあわてるな。

82— 食物特に果實**トマト**は充分用意してゆけ

## 第二十　航行規則

83— 追走艇は前走艇をさけよ。

84— 前走艇は風上へ轉向し得る外、**コース**を維持すること。

85— 順走艇は逆走艇をさけよ。

86— 舷開き艇は舳開き艇をさけよ。

87— 同一開きの艇の中、上手にある艇は下手の艇をさけること。

88— 全帆走に移り得ざる内に、衝突の惧れある**タツク**は之を認めず。

89— 衝突其他の事故は帆走委員會の審議裁判を以て最高絶對的のものとす。賠償額の決定、又同じ。

## 第二十一　納　艇

90— 繫留ブイに繫留中、諸品の整備、帆檣倒し、を完了し一番手艇庫前に運行し、二番手台車を用意す。

半ば艇を上陸せしめ積載品を格納し、浸水を排出し、艇内外を掃くこと。

物品の整頓、艇の安定に注意し、次日の乘艇者に不愉快の念を起さざらしめ、以て自らも又快適を享受せんことを思へ。

## 第二十二　帆走記録

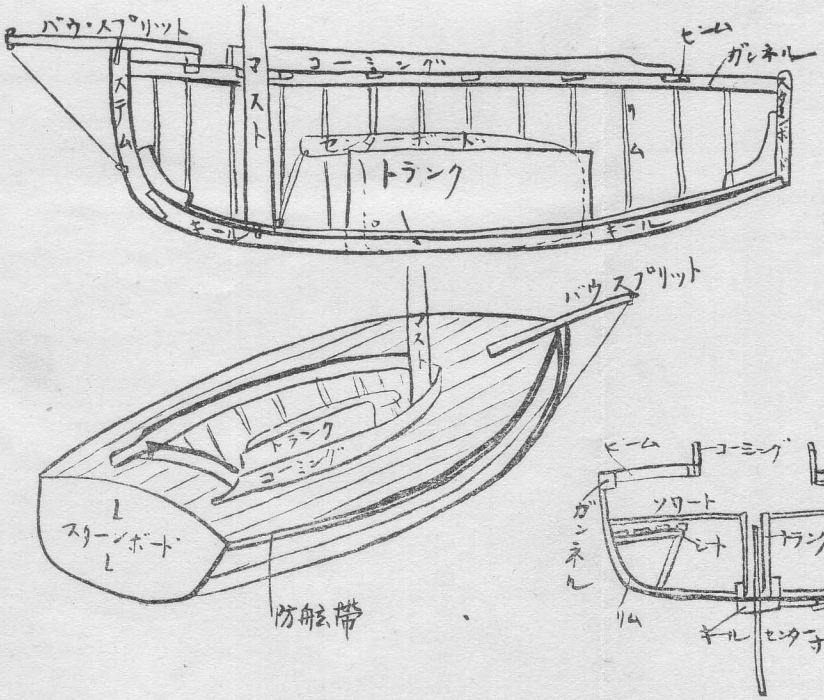
91— 艇長は左の帆走記録を委員長又は其代理者に納艇後提出せよ。

1、クルー氏名
2、艇名
3、帆走要項
4、天候概要
5、感想ノ一、二、
6、事故ノ有無
7、出艇時刻
8、納艇時刻

終り

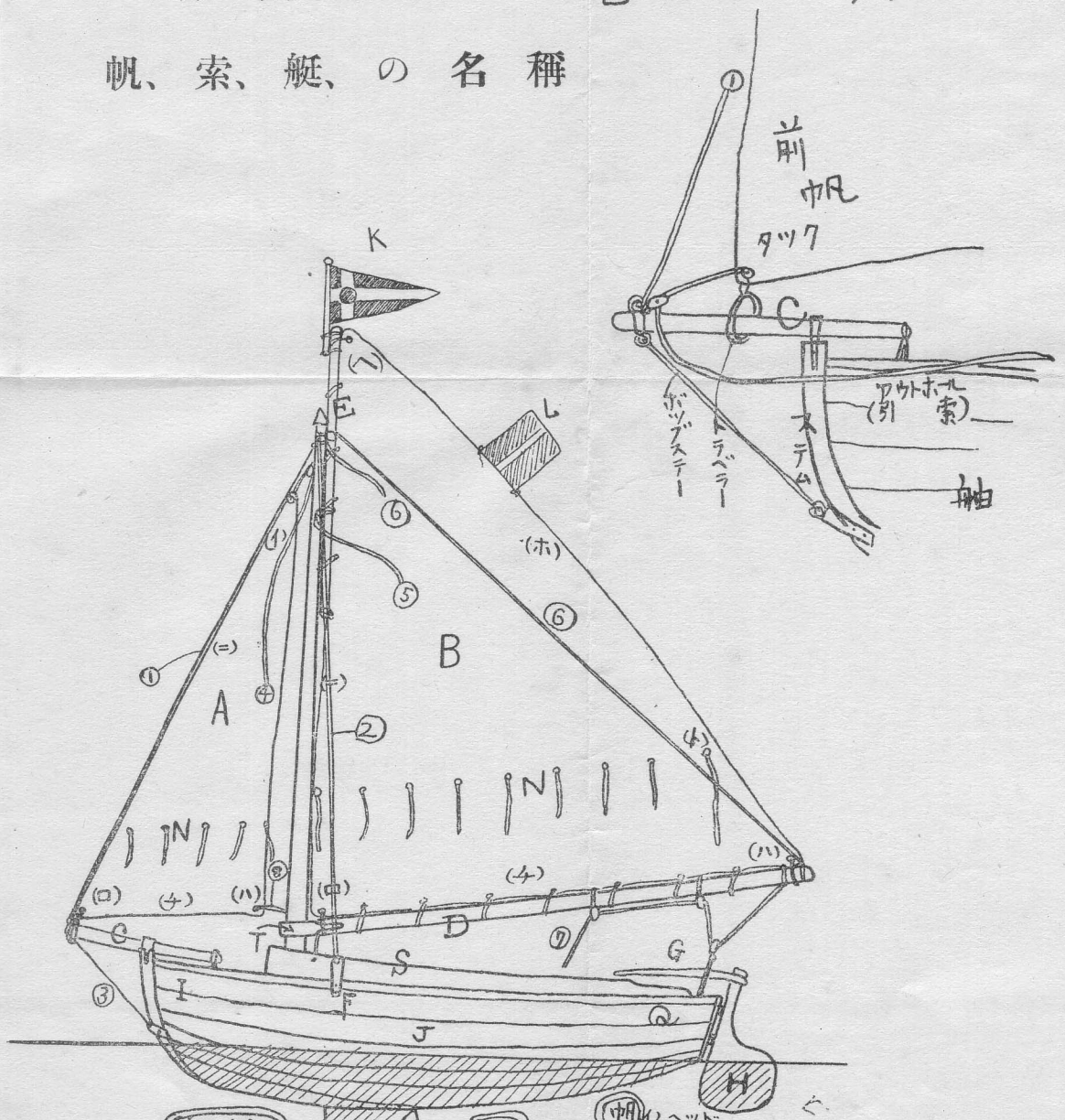
# 第一圖

## 艇之分部名稱


バウ・スプリット
ビーム
ガンネル
コーミング
マスト
ステム
センターボード
トランク
リム
キール
キール
バウスプリット
マスト
トランク
コーミング
スターンボード
防舷帶
ビーム
コーミング
ソワート
ガンネル
シート
トランク
リム
キール
センターボード

# 第二圖及第三圖　　圖ノーラーベラト

## 帆、索、艇、の名稱




**艇ノ各部**

| | | | |
|---|---|---|---|
| A | 前帆 | Q | コーター |
| C | バウスプリット | B | 主帆 |
| E | ガフ | D | ブーム |
| G | 舵柄 | F | チャンネル |
| I | 舵 | H | 舵 |
| K | クラブペナント | J | 舵 舷側 |
| M | センター・ボード | L | 個人旗 |
| S | コーミング | N | 綿紐 |
| | | T | グーズネック |

**索**

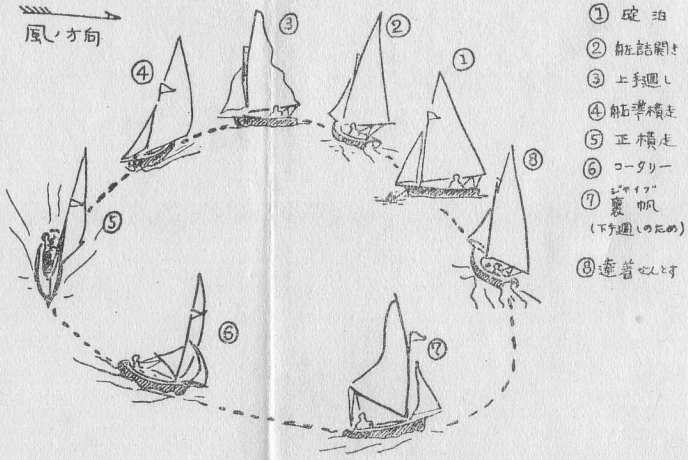
① フォアステー
② ミューラウズ
③ ボッブステー
以上静索
④ フォアー・ハリアーズ(前帆張場索)
⑤ メーン・ハリアーズ(主帆 〃 )
⑥ トッピング・リフト(上張索)
⑦ メーン・シート (主帆索)
⑧ フォアー・シート (前帆索)
以上動索

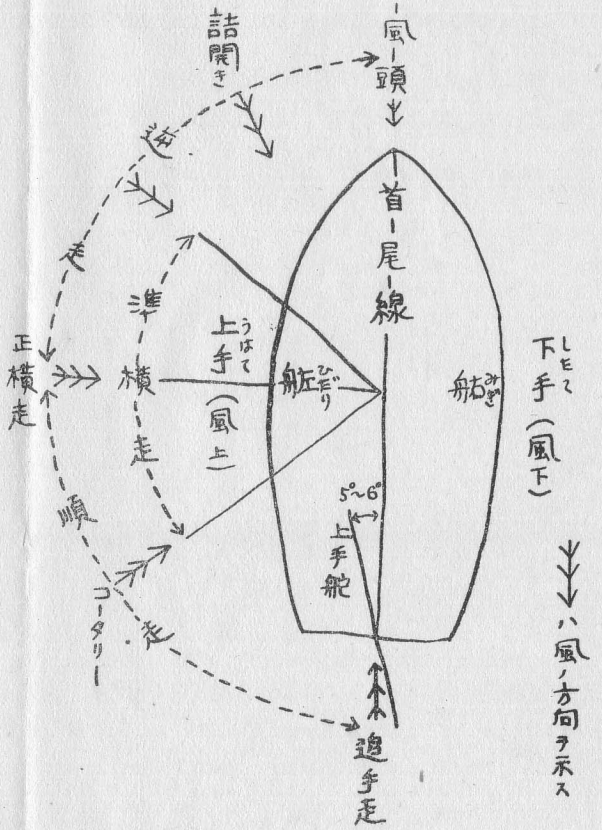
**帆**

(イ) ヘッド
(ロ) タック
(ハ) クルー
(ニ) ラフ
(ホ) リーチ
(ヘ) ピーク
(ト) クルーペダント
(チ) フット

# 帆走用語（第四圖）

| | |
|---|---|
| 1 展帆 | 帆を展ずる |
| 2 絞帆 | 帆を絞する |
| 3 縮帆 | 帆を一部分疊み縮少する |
| 4 伸帆 | 縮帆した帆を伸す |
| 5 踟躕 | 一定地位に漂する |
| 6 上手舵 | 舵柄を風上へ |
| 7 下手舵 | 舵柄を風下へ |
| 8 開く | 艇首を風上へ |
| 6 起す | 艇首を風下へ |
| 10離す | 風向と首尾線との角度を示す |
| 11舷開き | 舷側より風を受けて走る |
| 12舷開け | 舷側より風を受けて走る |
| 13詰開き | 極度に風上に逆る |
| 14順走 | 風を正横後ヨリ受けて走る |
| 15逆走 | 風を正横前ヨリ受けて走る |
| 16間切 | 舷舷開きを交互にやり走る |
| 17上手廻 | 風頭を通り過ぎ開きを變ずる |
| 18下手廻 | 追手走をやり裏帆（ジャイブ）を以て開きを變ずる |
| 19脚 | 間切りの一開きの走路を謂ふ |
| 20飄動（ラン） | 艇が帆索の放出度よりも風向へ開き帆から風が拔けるを謂ふ |



昭和七年二月十六日印刷
昭和七年二月廿五日發行

不許
複製

編輯兼發行者　吉本正雄

京都市中京區中町夷川上ル
印刷者　岸田福太郎

京都市中京區中町夷川上ル
印刷所　岸田印刷所

大津市中保町
發行所　日本ヨット倶樂部

ヨット教範

〔定價二十錢〕